

資料 2（参考）

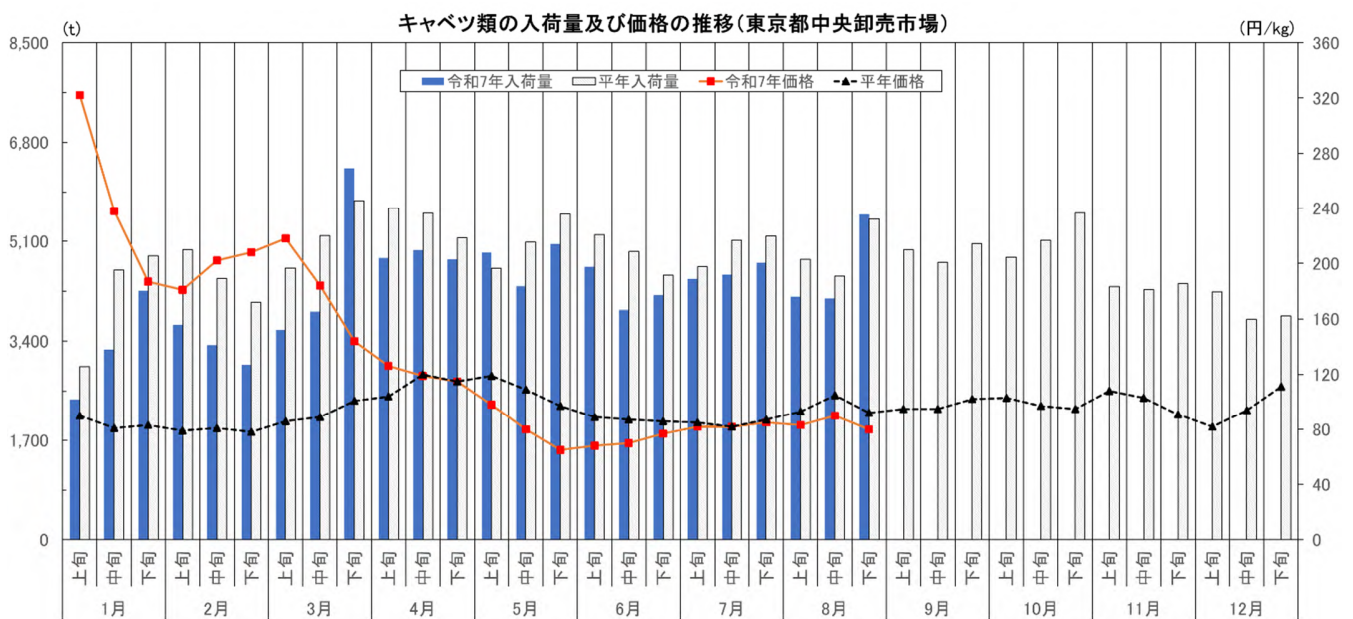
令和 7 年 1 0 月 3 日
野 菜 振 興 部

令和 7 年度緊急需給調整事業の実施状況について

1 令和 7 年の野菜（キャベツ、はくさい、レタス）の需給・価格動向

（1）キャベツ

令和 7 年 1 月～3 月上旬までは昨年の夏から初秋にかけての猛暑、1 2 月の寒波、雨不足などの異常気象により愛知県、千葉県などの主力産地で肥大が進まず、生育が遅延し、小玉傾向となったことから価格は平年を大幅に上回った。春系に切り替わった 4 月以降は適度な降雨と気温上昇で入荷が増えたことから価格は下落し、特に 5 月以降は平年を下回って推移している。



注：平年とは、過去 5 カ年（令和 2～6 年）の旬別価格の平均値である。

1 月：愛知産は曇天の影響で根の張りが悪く、さらに低温・乾燥により生育が遅延した。千葉産も 1 1 月の曇雨天からの低温・乾燥で肥大が進まず小玉傾向で入荷が少ないなか、加工・業務用からの引き合いも強く、記録的な高値が続いた。

2 月：引き続き愛知産は生育初期の高温・乾燥、1 2 月以降の低温・乾燥により生育が良くなく、虫害も多かった。千葉産は 1 月の降雨により小玉傾向はやや解消するも平年並みまでは回復せず、気温高から病害も散見された。加工・業務用は輸入品の入荷で落ち着くが、不足感変わらず価格は平年を大幅に上回った。

3 月：愛知産、千葉産、神奈川産の入荷となった。作付面積は各産地とも前年並みだったが、愛知産は 2 月の低温・乾燥の影響で生育が遅延し小玉傾向となった。神奈川産は遅延していた生育が回復し、雨で肥大も回復したが小玉傾向となった。加工を中心に

4月：春系に切り替わる時期で神奈川産を中心に愛知産、千葉産が入荷した。作付面積は各産地とも前年並み。神奈川産はアブラムシの発生がやや多いが病害の発生は少なく、干ばつ傾向の影響により生育にばらつきは見られるものの、3月の適度な降雨と気温上昇により回復した。中旬は、遅れていた千葉産と神奈川産の入荷が重なったものの総入荷量は少なかった前年をわずかに上回り、平年を1割強下回った。絶対数不足は解消されつつあるが、引き続き輸入が目立ち、価格は下げ基調となった。

6月：終盤の千葉産、茨城産がかなり多く、後続の群馬産、茨城産の作付面積は前年並みで、群馬産の一部で降霜や低温の影響を受けたが出荷に影響はなく、総入荷量は少なかった前年をやや下回り、平年を1割以上下回った。価格は下旬に底上げしたが平年を下回って推移した。

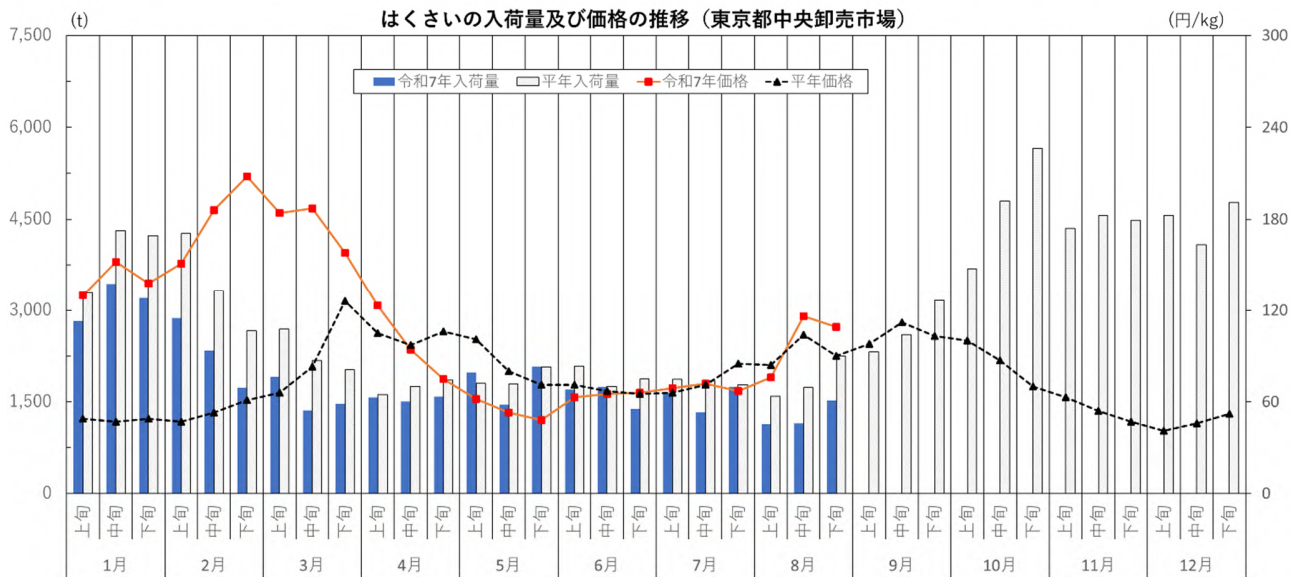
8月：群馬産中心の入荷で他産地は高温、乾燥の影響で小玉傾向で少なめだったが不足感はなく、他の野菜が高騰する中、値頃感ある展開となった。

Month	愛知 (Aichi)	千葉 (Chiba)	神奈川 (Kanagawa)	埼玉 (Saitama)	その他 (Others)
1月	5,400 (54)	2,900 (29)	1,000 (10)	400 (4)	300 (3)
2月	8,100 (58)	2,500 (25)	1,200 (12)	100 (5)	0
3月	8,700 (58)	2,400 (24)	0	0	400 (4)
4月	7,100 (45)	3,200 (32)	0	0	600 (6)
5月	6,300 (43)	2,200 (22)	1,900 (19)	1,200 (12)	400 (4)
6月	5,200 (37)	2,600 (26)	1,900 (19)	600 (6)	800 (8)
7月	5,700 (69)	0	1,500 (15)	800 (8)	400 (4)
8月	7,700 (77)	0	1,400 (14)	600 (6)	300 (3)
9月	8,100 (81)	0	1,100 (11)	600 (6)	200 (2)
10月	6,800 (68)	0	1,300 (13)	600 (6)	200 (2)
11月	3,300 (33)	2,600 (26)	700 (7)	1,000 (10)	900 (9)
12月	4,100 (41)	2,800 (28)	1,600 (16)	1,000 (10)	500 (5)

2

(2) はくさい

前年から続く野菜全体の高値と葉物野菜の不足により年初から高値が続いた。小玉傾向に加え、価格高騰から前倒出荷する産地では切り上がりも早かった。3月に入り、適度な温度と降雨により生育が進み4月以降春作が増量し、過剰感から一気に価格が下がった。8月以降は長野の高冷地でも夏場の高温と乾燥の影響から小玉傾向となり、価格は上昇した。



資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

注：平年とは、過去5カ年（令和2～6年）の旬別価格の平均値である。

1月：茨城産を中心に群馬産の入荷。作付面積は各産地とも前年並み。他の葉物野菜の入荷が少なく、引き合いが高まり高値が続いたことから収穫を前倒しした生産者も多く、小玉で前進出荷傾向となった。総入荷量は少なかった前年をやや下回り、平年を1割以上下回った

2月：主力の茨城産は小玉傾向に加え、葉物野菜への強い引き合いから前進出荷気味で切り上がり早く、後続の兵庫産は低温により生育が遅延し、降雨も少なく若干小玉傾向であった。総入荷量は少なかった前年を2割弱下回り、平年を3割近く下回った価格は平年を大幅に上回って推移した。

3月：茨城産の秋冬作は干ばつの長期化による小玉傾向に加え、高値を受けた前倒し出荷により切り上がり早かった。後続の兵庫産を含めた西南暖地は低温による生育遅延に加え、少雨の影響により小玉傾向で総入荷量は少なかった前年を1割以上下回り、平年を3割近く下回った。価格は平年の2倍を超える時期もあった。

4月：主産地である茨城産は天候に恵まれ、生育が順調となり春作がピークとなった。作付面積は前年並み。総入荷量は少なかった前年をわずかに上回り、平年をかなりの程度下回った。価格は後半にかけて下落し、下旬には平年を2割以上と大幅に下回った。

5月：茨城産の春作が中心となった。作付面積は前年をやや上回り、3月以降の気温の上昇と適度な降雨に恵まれ生育は順調だった。後続の長野産については、3月下旬の

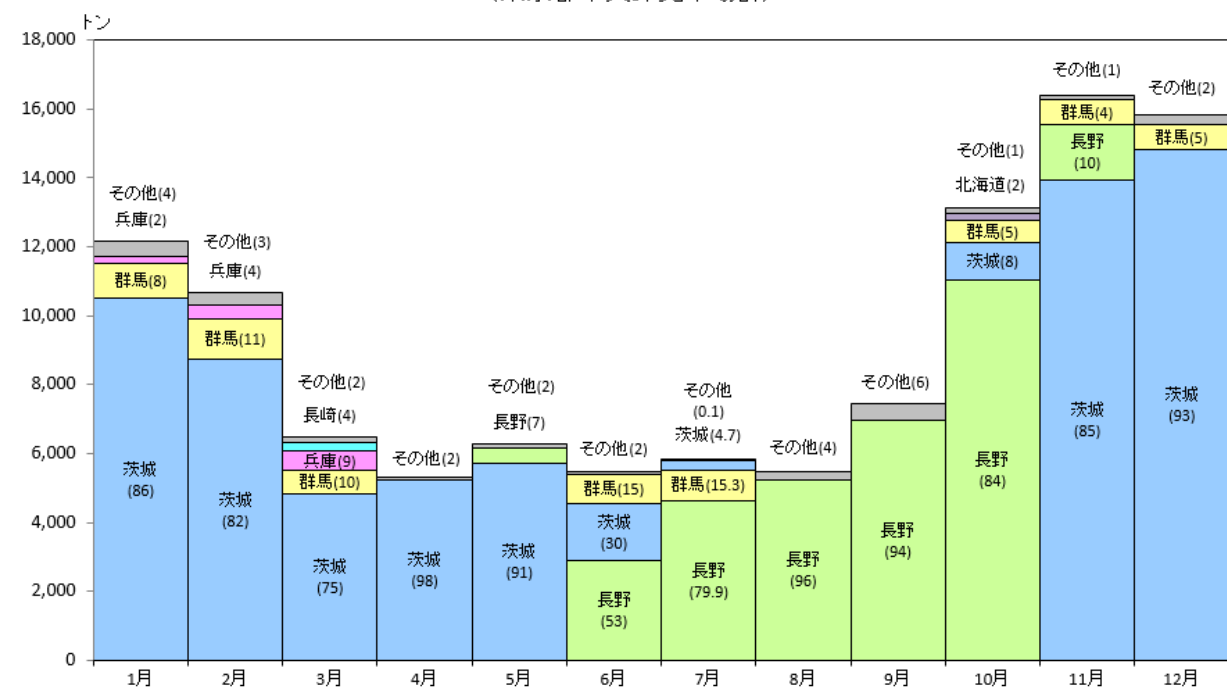
低温、4月の高温・干ばつの影響により生育がばらついたもののおおむね順調で総入荷量は前年をやや上回り、平年をわずかに上回った。過剰感から価格は大幅に下げ、4割近く平年を下回る場面もあった。

6月：終盤だった茨城産の残量多いなか、後続の長野産、群馬産の高冷地からの入荷が始まった。長野産は、作の終盤で下旬にはほぼ切り上がった。総入荷量は少なかった前年をわずかに下回り、平年を1割以上下回った。前半の価格は平年を下回ったが、後半には平年並みとなった。

7月：長野産の夏はくさいが中心となった。適度な降雨で生育順調で潤沢な入荷でスタートしたが高温・乾燥により痛みや生育の鈍り、一部で軟腐病が散見されるほか、アブラムシの発生が平年より多かった。総入荷量は、少なかった前年をかなりの程度下回り、平年を1割以上下回った。価格は、需要期ではないため平年並みで落ち着いた販売となった。

8月：長野産の入荷となったが高温と乾燥が続き、お盆休みもあって出荷数量が伸びず、価格はお盆以降、高値で推移した。

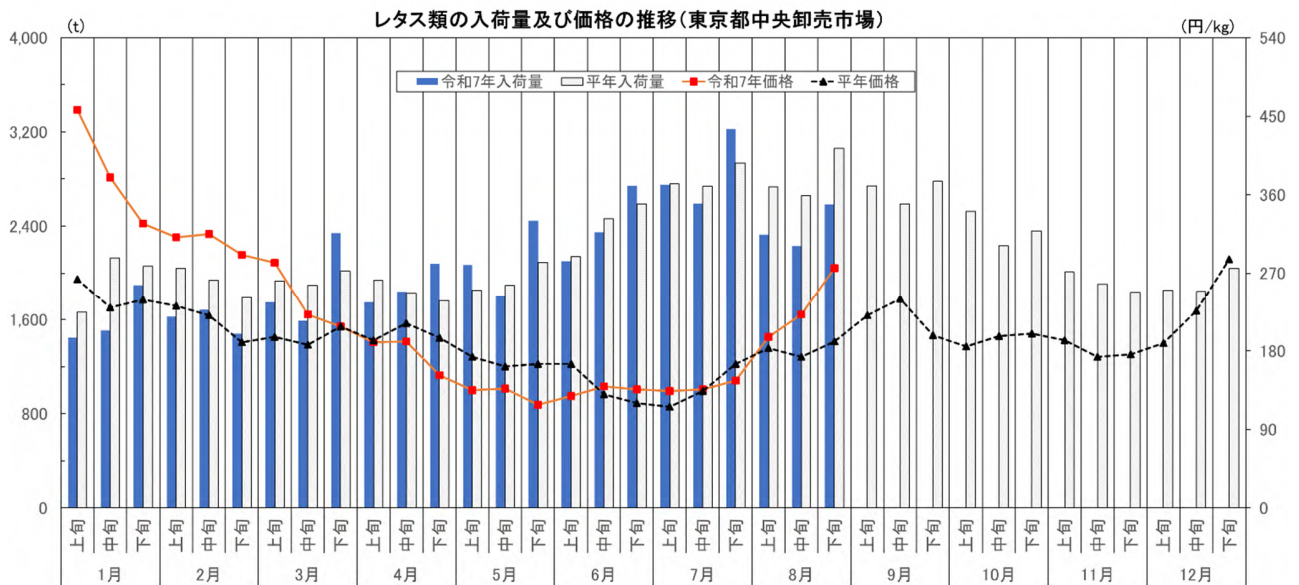
令和6年 はくさいの月別入荷実績
(東京都中央卸売市場計)



農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料：令和6年東京都中央卸売市場年報

(3) レタス

令和7年1月～3月中旬までは、生育期の低温と乾燥により小玉傾向となったが、下旬に茨城産が増量し一気に価格は下げ基調となった。4月以降、群馬産も順調に入荷し、夏場にかけては長野産もピークとなり平年を下回る価格推移となった。8月以降は主産地の長野産が定植以降の高温、雨不足により小玉傾向となり、価格は平年を大幅に上回った。



注：平年とは、過去5カ年（令和2～6年）の旬別価格の平均値である。

1月：静岡産に加えて香川産、長崎産など西南暖地中心の出回り。各産地とも作付面積は前年並み。12月の低温、乾燥により小玉傾向で総入荷量はやや少なかった前年、平年ともに1割以上下回った。下旬には品薄感から業務筋を中心に輸入品も出回ったが価格は平年を上回った。

2月：香川産など西南暖地からの入荷は終盤。静岡産は1月の気温の上昇と若干の降雨によりやや前進傾向にあったものの、2月の気温の低下により停滞および玉肥大に圃場間でばらついた。茨城産の入荷が始まったが2月の低温、乾燥により小玉傾向となった。総入荷量は前年、平年ともに2割近く下回った。価格は平年を大幅に上回って推移した。

3月：茨城産を中心に静岡産、香川産などの入荷となった。各産地の作付面積は前年並み。香川産は降雪や低温による生育停滞に加え、凍害や生育不良もあったが、2月の低温、乾燥による生育停滞は脱し、気温の上昇と適度な降雨で生育が回復したことから総入荷量は少なかった前年をかなりの程度上回り、平年をやや下回った。特に下旬にかけて茨城産が増量し、価格は下げ基調となった。

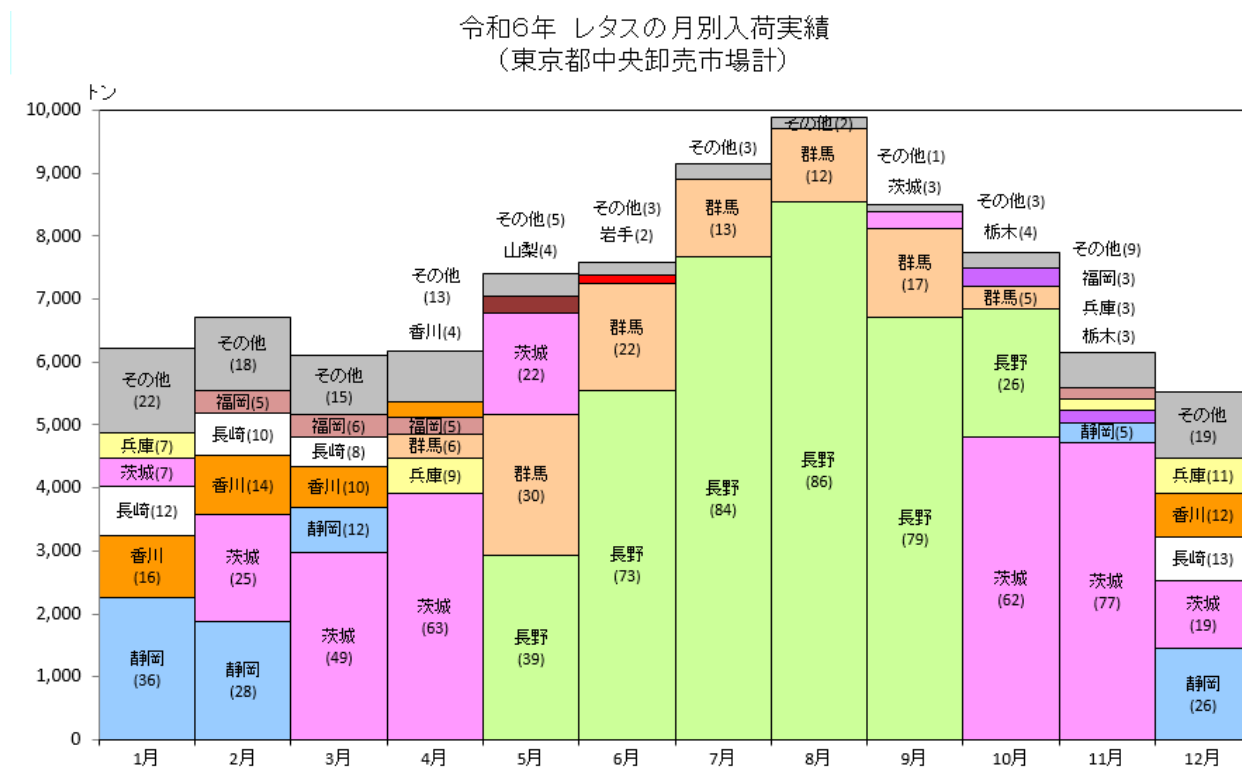
4月：上中旬に茨城産がピークから徐々に減量。中旬以降、群馬産が潤沢な入荷となり、総入荷量はやや少なかった前年をかなりの程度上回り、平年をわずかに上回った。価格は下げ基調で、特に下旬は平年を2割以上下回った。

5月：茨城産は終盤。群馬産、長野産ともに夏のピークに向けて順調な入荷が続いた。各産地とも作付面積は前年並み。低温・乾燥により生育が停滞していたが、3月の気温の上昇と適度な降雨で回復しおおむね順調である。総入荷量はやや多かった前年をわずかに下回り、平年をかなりの程度上回った。価格は、西南暖地産の減少ペースが緩やかなことも重なり下落し下旬には平年を3割程度下回った

6月：主産地の長野産、群馬産はともに作付面積は前年並み。長野産は干ばつの影響で生育遅延や病害が散見されたが、順調な出荷となった。群馬産は生育初期の低温が心配されたが生育順調で潤沢な入荷となった。余剰感あるなか価格は軟調に推移した。高温と降雨により品質も低下するなど厳しい販売となった。

7月：長野産を中心に群馬産も入荷した。生育は順調で潤沢な入荷で価格は落ち着いた展開となった。

8月：主産地は長野県だが定植以降の高温、干ばつにより小玉傾向。下旬にかけて加工・業務用も不足分を市場調達する動きがあったことから、平年を大幅に上回る価格展開となった。



農畜産業振興機構「ベジ探」、原資料：令和6年東京都中央卸売市場年報

2 緊急需給調整事業の実施状況

(1) 事業実施状況

令和7年度事業においては、レタス、はくさいで実施しており、数量で約2,628トンである(9月10日現在)。

実施時期	対象品目	実施主体	数量	実施手法
4月下旬及び5月上旬	春レタス (非結球)	全農福岡県本部	43t	市場隔離(有効利用用途) 産地調整(出荷抑制)
5月上中旬	春レタス (非結球)	全農福岡県本部	207t	市場隔離(有効利用用途) 産地調整(出荷抑制)
5月下旬	春レタス (結球)	全農茨城県本部	6t	市場隔離(有効利用用途)
		全農群馬県本部	129t	市場隔離(有効利用用途) 産地調整(出荷抑制)
		全農長野県本部	308t	市場隔離(有効利用用途) 産地調整(出荷抑制)
5月下旬	春レタス (非結球)	全農福岡県本部	120t	市場隔離(有効利用用途) 産地調整(出荷抑制)
6月中旬	春はくさい	全農茨城県本部	4t	市場隔離(有効利用用途)
6月中下旬	夏秋レタス (結球)	全農長野県本部	1,011t	市場隔離(有効利用用途) 産地調整(出荷抑制)
6月中旬	夏秋レタス (結球)	全農群馬県本部	201t	市場隔離(有効利用用途) 産地調整(出荷抑制)
7月中下旬	夏はくさい	全農長野県本部	227t	市場隔離(有効利用用途) 産地調整(出荷抑制)
7月中下旬	夏秋レタス (結球)	全農長野県本部	290t	市場隔離(有効利用用途) 産地調整(出荷抑制)
	夏秋レタス (非結球)	全農長野県本部	69t	市場隔離(有効利用用途) 産地調整(出荷抑制)
7月下旬	夏秋レタス (結球)	有限会社トップ リバー	10t	産地調整(出荷抑制)

注) 数量は、交付対象数量を記載。

(2) フードバンクへの無償提供

本事業では、産地調整によって廃棄せざるを得ない野菜をできる限り無駄にせずに食べていただくために、出荷団体等によるフードバンク等への野菜の無償提供を支援しており、フードバンク等を通じて子ども食堂、児童福祉施設、パントリー活動団体等へ無償提供されている。令和7年度の実績状況は下表のとおり。

実施時期	対象品目	実施主体	数量	主な提供先
4月下旬及び5月上旬	春レタス (非結球)	全農福岡県本部	3,120kg	福岡県フードバンク協議会
5月中旬	春レタス (非結球)	全農福岡県本部	1,240kg	福岡県フードバンク協議会
5月下旬	春レタス (結球)	全農茨城県本部	6,000kg	セカンドハーベストジャパン
		全農群馬県本部	300kg	NPO 法人三松会
		全農長野県本部	500kg	セカンドハーベストジャパン
5月下旬	春レタス (非結球)	全農福岡県本部	1,240kg	福岡県フードバンク協議会
6月中旬	春はくさい	全農茨城県本部	4,450kg	セカンドハーベストジャパン他
6月中旬	夏秋レタス (結球)	全農長野県本部	1,000kg	セカンドハーベストジャパン
		全農群馬県本部	500kg	NPO 法人三松会
7月中下旬	夏はくさい	全農長野県本部	600kg	セカンドハーベストジャパン
7月中下旬	夏秋レタス (結球)	全農長野県本部	400kg	セカンドハーベストジャパン
7月中下旬	夏秋レタス (非結球)	全農長野県本部	80kg	セカンドハーベストジャパン
合計			19,430kg	

＜参考＞ 緊急需給調整事業の実施状況（交付年度ベース）

年度	実施状況	数量 (トン)	交付金 (千円)
平成 19 年度	出荷の後送り 市場隔離 : 冬キャベツ、秋冬だいこん : 秋冬だいこん、秋冬はくさい	4,721	119,455
平成 20 年度	市場隔離 : 夏秋キャベツ、夏だいこん	6,485	208,937
平成 21 年度	市場隔離 : 夏はくさい	1,119	40,284
平成 22 年度	出荷の前倒し 市場隔離 : 春キャベツ、たまねぎ : 夏はくさい	1,503	52,736
平成 23 年度	— —	—	—
平成 24 年度	市場隔離 : 夏秋キャベツ、夏はくさい	11,348	355,522
平成 25 年度 ～平成 28 年度	— —	—	—
平成 29 年度	加工用販売 : 秋にんじん	1,486	45,890
平成 30 年度 ～令和元年度	— —	—	—
令和 2 年度	市場隔離 : 冬キャベツ、夏秋レタス、 秋冬はくさい 出荷の後送り : たまねぎ、秋冬だいこん、 秋冬はくさい	18,117	400,488
令和 3 年度	市場隔離 : 春キャベツ、春はくさい、 春レタス、夏秋レタス、 夏はくさい、夏秋キャベツ、 冬レタス、秋冬はくさい、 秋冬だいこん、冬にんじん 出荷抑制 : 夏秋レタス、夏はくさい、 夏秋キャベツ、冬レタス、 秋冬はくさい、 秋冬だいこん、冬にんじん	25,553	1,260,160

年度	実施状況	数量 (トン)	交付金 (千円)
令和4年度	市場隔離 : 夏秋レタス、夏はくさい、 夏秋キャベツ、冬キャベツ、 冬レタス、秋冬はくさい、 秋冬だいこん、冬にんじん 出荷抑制 : 夏秋レタス、夏はくさい、 夏秋キャベツ、冬レタス、 秋冬はくさい、冬キャベツ、 秋冬だいこん、冬にんじん	29,738	1,526,060
令和5年度	市場隔離 : 夏秋レタス、夏秋キャベツ、 冬レタス、秋冬はくさい 出荷抑制 : 夏秋レタス、夏秋キャベツ、 冬レタス、秋冬はくさい	17,061	775,941
令和6年度	市場隔離 : 冬レタス、秋冬はくさい 出荷抑制 : 冬レタス、秋冬はくさい	1,980	101,590